

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800038		
法人名	株式会社 エクセレントケアシステム		
事業所名	グループホームえくせれんと東山2階ユニット		
所在地	京都市東山区大黒町通正面下ル塗師屋町585		
自己評価作成日	平成26年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成26年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点としては会社の理念でもあります「マナー・接遇」「おいしい食事の提供」「退屈させない日々の介護」を目標にオープンから一年間やってまいりました。「マナー・接遇」につきましては外部から講師を招きご指導いただいたり日々の生活の中で、言葉遣い・気配り・心配りを忘れないように指導しております。「おいしい食事の提供」につきましては自施設で全て調理させて頂いており近隣の方から頂いたお野菜や施設内で収穫したお野菜なども提供しています。その時の体調などにもより個々に少し食事の内容や形態を変えるなどの工夫をし皆様に美味しく食事を摂っていただけるように努めております。「退屈させない日々の介護」につきましては学生ボランティアや近隣の地域ボランティアの方々の協力もあり様々な行事やレクリエーションなどをさせて頂いております。利用者様・ご家族様・職員すべての方にとって第二の我が家となるような居心地の良いほっこりできる施設を目指しております。職下機能低下に伴い食事形態や食事介助が重要となる利用者様が何名かおられるので、定期的に医師や看護師、STIにも評価をして頂き対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市東山区七条通りのそば、国立博物館や三十三間堂に近い古くからの住宅街にある小規模多機能型事業所と併設のグループホームである。建物は町家風であたり溶け込んでいる。地域との関係が良好で、ホームの行事や趣味の教室に近隣の人の参加があり、小中学校とも交流が進んでいる。家族もふだんの面会のみならず、行事に参加と協力、交流会での話し合い等、良好な関係ができています。職員は向上心があり、自分で発想して仕事に取り組んでいる。ちょっとしたきっかけで種々な人間関係をつくることに長けている。家族の利用者のくらしを知りたい思いにこたえて利用者ごとの個人新聞を発行する予定である。開設1年にして、地域との自然な交流、家族の信頼感、意欲の高い職員のチームワークが実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが				

24	秋は又旅により、又心して看るにしている (参考項目:28)	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階で設定した理念を掲示し、職員一人一人が理解し共有できるようにしている。	法人の理念を踏まえてグループホームの理念は「ゆっくりたっしやくらしましょう、自分らしい生活を支援します、おいしく楽しくにっこりと」と定め、ホーム内に掲示し、利用者や家族に説明している。新入職員に研修している。理念にそって一人ひとりの利用者の思いをくみとり、散歩や買い物に出かけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	えくせれんと東山では地域の消防団に職員2名入団させて頂いており、地域の消防活動など参加している。民生委員・地域の方が毎週近隣の小学校で開催されている高齢者のつどいにも参加させて頂いている。地域のボランティアの方に協力いただきフラダンスや音楽療法も実施させて頂いている。	利用者は散歩して近くの公園で犬の散歩に来た近所の人と交流したり、近くの店に買い物に行っている。町内会に加入し、回覧板にホームの広報誌を回してもらっている。職員が消防団に加盟し、夜回り等に参加している。ホームで「ほっこりカフェ」やさまざまな教室を開催しており、地域の人に参加している。近くの保育園や小中学校の文化祭を見物に行ったり、生徒たちが演奏にきてくれたりの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	京都市と福祉避難所としての協定を結ばせて頂いている。地域交流会などをきっかけに介護についての相談など時間を設けている。来所していただいた時には介護を含め認知症の相談なども対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を実施しております。その際は、事業所の利用状況・行事報告等を報告しております。どのような形で皆様の生活を知っていただけるかを試行錯誤し各フロアの写真やスライドショーなど様々な方法を取り入れるようにしている。	家族、民生委員、地域包括支援センターが委員となり、隔月に開催し、記録は全家族に配布している。ホームから利用者状況や行事報告をしている。意見はほとんどない。	豊かな内容の運営推進会議を開催し、ホームの運営を支援してもらうために、交流のある保育園、小中学校の校長先生、消防署や消防団長等をゲストメンバーとして参加してもらい、ホームの内容をよく知ってもらい、意見交換できることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて京都市東山区役所・国保連合会の担当の方と連携を図っている。東山区の事業所連絡会の世話役になっており、役所職員・東山区の事業所・医師会等との連携が図れるように努めている。	東山区の担当課とは日常的に報告をしている。区が主催している東山区事業所連絡会や地域ケア会議に参加し、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践	身体拘束廃止に向けたマニュアル作成している。	「身体拘束をしないケア」について、重要事項説明	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会に身体拘束委員会を設置している。	書に明記し、マニュアルを作成し、職員研修は毎年実施している。事例はない。職員はスピーチロックについても認識し、理解している。グループホームへ上がるエレベーター、ユニットの玄関等は施錠やキーロックはない。玄関ドアと非常口がロックされている。	利用者の行動分析をし、職員配置等を考慮して、日中の何時間かを玄関や非常口を開錠することができないか、職員の話合いが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を掲示及び職員の目に入る場所に保管している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	7の項目にも記載したが、コンプライアンスルールを掲示しております。成年後見制度を利用されておられるご入居者様はおられますが、研修など勉強し理解していける機会をもっと設けないといけない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際は、重要事項説明書・契約書・他書類の説明をさせていただいてから署名・捺印していただいている。1回の説明で不十分だったり、契約時以外のご親族がおられる場合は一度お持ち帰り頂き内容など再度確認、納得していただいていた事もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・入居者様・家族様・えくせれんと東山がお世話になっている方々からご意見などを頂けるようにご意見箱を設置しております。又、苦情・相談等があれば早期に対応して事が大きくなるように注意している。利用者・ご家族様に対してはアンケートを家族会の時や郵送などによりいただける様にしている	隔日に来る人、隔月に来る人等、家族の面会は多い。夏祭り、クリスマス会、餅つき等ホームの行事にも大勢の家族が参加している。家族交流会は毎年実施、互いの悩み等の話し合いができています。広報誌を毎月発行、職員の異動、行事報告等をしている。毎食の献立を撮った写真を家族に見せたり、申し込んで利用者と一緒に食事している家族もいる。「利用者がどんな生活をしているか、知りたい」という家族の意見により、撮りため写真でスライドショーをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・研修会・各委員会・提供会議を行い職員の意見や提案を聴ける様にしている。	全体会議で運営の検討と内部研修と伝達研修、フロア会議でケース検討等、毎月実施している。全職員委員会に所属し、委員会も毎月開催している。職員は異動、外部研修受講等の希望を述べる事ができる。外部研修には報告書と資料配布、伝達研修が義務づけられている。内部研修は研修委員会が立てた年間プログラムにより実施している。職員の目標は半年ごとに振り返り、上司との面談で支援されている。職員はフランクに意見や提案をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価シート作成していただき、個々のレベルがアップする様に努めている。労働時間も出来る限り勤務時間内で退社する様に職員同士で協力する様に声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修及び内部外（認知症実践者研修）に積極的に参加して頂けるようにしている。新人職員に対しては京都支店にて研修期間も設けており、施設内でも個別に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際、他事業所の職員との交流をしている。事業所連絡会などを通して交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様にとって居心地のいい場所にしていくためには常日頃から挨拶にしても声を掛けてくださった時にしても必ず立ち止まりその方の目を見て話をするようにと指導しています。そのような些細な行動が積み重なり信頼に代わっていくと考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との信頼関係が築ける様に、本人様の体調等随時連絡している。ご家族様が施設での生活を少しでも知っていただき安心いただける様にと利用者様個々に写真などを添付した～様新聞を定期的にお便りなどと一緒に郵送するように考えています。（初回9月開始）		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済的な理由により経費で入居が可能となる福祉事業所の調査や申し込み等の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のペースに合わせて対応させていただいている。入居者様それぞれに施設で生活するうえでの役割をみつけるようにしています。それぞれの役割を職員が支えながら生活が送れるようにと考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際にGHのご様子等を説明しております。必要に応じて個人記録を閲覧していただき生活や病状の説明をしています。又、外出や病院受診等の協力をいただいております。ご家族様がボランティアとして行事をして頂いたり参加して頂いたりとても協力していただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等に来られた際は、いつでも気軽に来ていただける様にと施設側からお話はさせて頂いております。少しでも来るきっかけになればと思います。行事の予定などフロアに掲示するように努めています。馴染みの方が来所され他の方とも馴染みになって頂けるといった光景もありとても感	四国に嫁いでいる娘に会いたいという利用者の希望をキーパーソンに伝え、医師の許可をとって実施し、利用者は元気になって帰ってきている。以前息子や娘に連れて行ってもらった護王神社に行きたいという利用者に同行している。	利用者が心の奥深くにしまっている会いたい人、行ってみたい場所、おいしかった好きなもの等々、情報収集して希望を叶えることにより、生きる意欲がでることを支援することが望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さん職員が介入しなくても支え合っておられる場面はよく拝見します。しかし、取り込みなどの周辺症状がある利用者様もあり、職員が間に入った席の誘導などするように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが契約終了後もお電話やお手紙により連絡を取るようになっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人様の思いや家族の意向を聞かせていただける様にし、支援に反映していきたいと考えて行っている。	利用開始の際には利用者、家族、かかりつけ医、利用していた居宅のケアマネジャー等から情報を収集しているものの、生活史、仕事歴、好きなこと等の情報は少ない。「足が痛くて役に立たん」「ごはんはおいしい」「家でくらしたいけど……」等、利用者の率直な思いを記録している。	利用者のグループホームでの生活をたてていくために、利用者理解が第一である。利用者の生活史、仕事歴、趣味等の情報を収集し、利用者の心の奥にある暮らしへの希望を探ることが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話で生活歴や生活環境が聴きだしが出来る際は、記録に記入し職員が共有できるように毎月提供会議の中で私のこだわりシートや個々の利用者様の話し合いをする機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時に、小規模・2階・3階・看護・事務所の順番で申し送りを実施している。その時の状況など支持を出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、利用者様・家族様のニーズを反映出来る様に気をつけている。なかなかプランが浸透していない箇所もある。	介護計画はサービス担当者会議を経てケアマネジャーがたてている。身体介護の他に「楽しいことを見つける」「他の利用者との交流」「家事」等、生きがいにつながるような項目である。介護記録は時間ごとに利用者の状況を記録し、介護計画に沿ったものではない。3カ月ごとに実施しているモニタリングは介護計画の項目ごとに、「介護の実施」「利用者の状況」「利用者・家族の満足度」「目標達成度」「今後の方針」の項目にしたがって記録している。	介護記録は介護計画の項目ごとに、実施したときの利用者の発言や表情、拒否があった場合はその要因等を記し、モニタリングの根拠となるようにすることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者様・家族様が閲覧されても分かりやすい専門用語を使わず記載・本人の状況などが全職員わかるように記載するようにと指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等の送迎サービスもその場に応じて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員や家族様に参加してもらう事によって地域の情報や運営に関する助言を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は東山診療所である。一人一人往診日は決まっておりに適切に診療していただいております。月に1回内科カンファレンスを開催していただいております。経過など医療的な指示を的確にいただいております。	利用者の従来のかかりつけ医に受診している人もあり、協力医療機関に変更した人もある。受診は家族や事情によっては職員が同行している。協力医療機関の医師は毎月往診してくれており、利用者のサービス担当者会議にも参加してくれる。認知症に関して受診している人もいる。歯科は訪問歯科を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	大きな問題なく看護職との連携出来ていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時は、サービス担当者会議を開催していただき、実際にこちらの施設に退院されても問題ないか情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアの指針は契約書の際に頂いているが、現在看取りをさせて頂いた方はおられません。しかし、看取りを希望されている利用者様・家族様は多くいらっしゃるため今後、研修や勉強会を重ねてその時に対応できる体制を整えなければいけない。	グループホームとしての「重度化や終末期に向けた指針」を作成しており、契約時に利用者や家族に説明し、意向を把握している。「最期までお願いします」という家族が多い。今後職員研修を充実させる予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員に普通応急の資格を積極的に取得させた。約半数は取得済。救急搬送は何度かあるが冷静に迅速に対応出来ていると思われる。緊急時は、施設長・主任のどちらかに電話するように指示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所は、近隣である「耳塚公園」である。避難訓練は実施している。地域の避難訓練にも参加させて頂き協力体制を築いている。	消防署と地域の人の協力を得て、年2回の避難訓練をしている。夜間、地震、抜き打ちの訓練はできていない。ハザードマップを掲示し、職員は危険個所を認識している。AEDを備え、職員は救命訓練を受講している。当ホームが京都市との協定で緊急避難場所になっているため、備蓄は十分に用意し、水の準備をしている。	地震、夜間、抜き打ちを含めて、避難訓練は回数多く実施することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	株式会社エクセレントケアシステムの理念一つである「接遇・マナー」を掲げている。職員にはしっかりと徹底する様に指導している。外部から講師をお招きし、マナー・接遇研修を実施している。(エクセレントケアシステム全体)	マナー、接遇は法人の介護理念であり、毎年職員研修をしている。排泄や個人的な話はみんなに聞こえないようにすること、利用者が黙っていても職位から積極的に話しかけること等に注意している。衣服や飲み物の選択は選択肢を用意することによって支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での声掛けなどについては本人様に分かるようにしっかり立ち止まり目を合わせて話をするように指導している。利用者様が聞こえていない、理解できていない、納得できていないというような状況で支援はしない様にと指示している。自己決定が出来る様にという部分について		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度、一日の流れは決めさせて頂いているがその日その時の本人様の要望や体調などに応じて臨機応変に対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問理容に来て頂いており、カット・顔剃りなどもして頂いている。月1回エステ(化粧・ハンドマッサージなど)ボランティアに来てもらっている。その他外出などの機会や来客(ボランティア)などを増やし支援できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理員を1名雇用している。利用者様と一緒に調理や片づけをして楽しませている。	調理師免許をもっている職員が利用者の声を聞きながら献立を立て、食材は注文配達を受けている。献立は季節感があり、バラエティに富んでいる。調理は職員が利用者とともにしており、利用者は味見や盛り付け、後片付け等をしている。漬物をつけている人もいる。湯飲み、ごはん茶碗、お箸は利用者のもってきたものであり、共用の食器は季節により変えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量チェックは実施している。東山診療所STが定期的に来られ個々の嚥下機能やその方に合った調理法などの指導・評価をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行っている。月1回往診しかに来て頂いておりその方に合った口腔ケアの仕方などについても指導いただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ、夜間は必要に応じてポータブルトイレに誘導している。排泄チェックや個々のサイクルを把握し出来るだけトイレでの排泄が継続できるように努めている。	「トイレでの排泄」という方針のもと、排泄チェック表をつけ、利用者の排泄パターンを把握し、声掛け誘導し、リハビリの人も布パンツになる等、改善している。ほとんどの利用者がトイレで、夜間はポータブルトイレを使う人もあり、オムツ使用はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご家族様に依頼し、ヨーグルト等の購入を依頼している。また、ラジオ体操・すこやか体操などを取り入れ便秘にならない様に運動もしている。必要に応じてホットパックやマッサージなども心がけるようにしている。薬剤の調整などについては東山診療所と連携を取り本人様に出来るだけ負担が		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は清潔保持の為、入浴していただける様に努めているが毎日入られている方もいらっしゃる。午前・午後等の希望をおっしゃる方もいるので、出来る限り対応させていただいている。	浴室は設計上窓がなく、入浴を楽しむ工夫が必要である。浴槽はゆったりとしている。週2回を目標に支援しているものの、利用者の希望により毎日入っている人もいる。入る日や時間帯、湯温等、希望にそっている。利用者は介助の職員との会話を楽しんでいる。ゆず湯をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が休みたい時に休んで頂けるようにしている。フローアなどの電気は他の方も休まれているので少し暗くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携を結んでいる三宅薬局が薬をセットして下さっている。一人一人のおくすり手帳は事務所で保管している。飲み忘れなどが無い様に細心の注意をしている。二重確認等している。薬剤師による勉強会を開催予定している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でそれぞれに役割を持っていただける様にと考え支援させて頂いております。調理・洗濯・掃除のほか興味のある事であれば出来るだけして頂けるような環境作りに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事計画書を作成し、季節を感じ楽しんで頂ける企画を考えています。それ以外に行事計画書を出すのではなく、今日お出かけしたい方などその都度声を掛け近くにでもすぐ出かけられるように心がけています。	近くの耳塚公園へ散歩に行ったり、近くの店におやつやジュースを買いに、また喫茶店でお茶をしたりしている。豊国神社への初詣、三十三間堂での節分詣、京都水族館での花見、浄水場での藤の花現物、嵐山での紅葉狩り等、季節の外出をしている。利用者から「行きたい」と希望だてたときは個別に外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他の入居者様と共同生活の為、トラブルもあり得る可能性があるので原則財布は持って頂いていない。何かを購入される際は、家族様に連絡し許可いただければこちらから立替金として購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ハガキと一緒に出しに行ったり、電話があれば入居者様に繋いだりさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただける様にお花を生けたり、フロアの飾りつけを季節の物に変えたり一緒に作る楽しみも持ちながら行っています。	2階と3階がグループホームであり、エレベーターを出たところに季節の花や色紙、職員の紹介をしている。共用空間はかなり広く、オープンキッチンがあり、4人掛けの食卓を並べている。利用者をつくった季節の大きな貼り絵が唯一の飾りである。利用者の刺激となるような強い光や大きな音はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ある程度、自分の居場所が決まっておられ気の合う方同士楽しく過ごされているように感じています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にはご本人様が慣れ染んだ筆筒・布団等を搬入して頂けるように依頼はしているが、機能を重視されるご家族やスペース的に難しいと言われる方も多くいらっしゃいます。そこで施設と一緒に作ったものや写真などを飾るように心がけています。	居室は洋間で洗面台がついている。奥はベランダへのガラス戸になっている。ベッドをおくと、かなり狭い。利用者は整理ダンス、衣装ケース、テレビ等を持ち込んでおり、壁には好きな写真等を飾っている。カレンダー、日めくり、時計等の設置はなく、季節の花を生けるところもない。	居室には少しでも収納場所をつくること、季節感を感じられるような写真や風景画を壁に飾ること等とともに、利用者が自分らしい暮らしができるためのものを持ち込むことができるように支援することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かし尚且つ楽しくしていただけるように支援が出来ればと日々試行錯誤しながら支援にあたっております。		